# 清竹風雅

清風先生は生前「来年の3月に、竹風展はこの三の丸ホールでやりたい。」と申しておりました。一年遅れになりましたが、遺墨展と竹風展を併催展とし、遺墨集（小林清風・竹雅遺墨集「相照のかたち」）を編み発刊するというかたちで、先生へのご遺徳におこたえしたいと思います。ここに、豊徳の師清風先生と、温雅な竹雅先生の60年の歳月が生んだ多彩な作品60点と共に、両先生が同時期にのこされたもうひとつの重要な足跡を提示し、その生き様に学び、広く世に発信します。清風・竹雅両先生の相照す姿と共に、私たちのオマージュの作品も合わせてご覧いただければうれしく存じます。

## 小林清風・竹雅先生遺墨展―相照のかたち―

**展示室**
**ギャラリートーク＝21日（金）13～13時半**

師や同時代の書家のスタイルに追従せず、むしろ、それらから意識的に距離を取って一意専心に「自分の字」を書いたことが、この度展示されている数々の遺墨から見える清風の書の特質である。文字を客観的な物象として虚心に捉え、その形状を彫琢することに注力した跡が作品にある。もう一つのライフワークであった学校教育の研究において、国語や社会ではなく、理科に重点を置いていたことも関係しているのかもしれない。換言すれば、理系的思考に基づいた、彫塑的にして力学的な発想を採る書家なのだ。一方、小林竹雅は、あくまで比較論になるが、近代美術的な発想に立ち、造形性や視覚性の側面を強調する清風の作品に対し、書という芸術の特性と歴史性とに鑑みた、より文学的なアプローチを好んだ作家だったと言うことができるだろう。古典文学や近代の歌人に取材し、その世界観を適意な線の表情に映し出す手腕が相当の水準にあることは即座に感取されるところである。打ち明けて言えば、筆者は、具体的な事実を知る立場にない。そうした制約を越えてなお、二人の活動の履歴と残された作品群から、書家としての在りし日の佇まいや個性が浮かび上がってくることに、意外な驚きを感じている。

美術評論家　栗本高行「力学的な構成と文学的な世界観―小林清風・小林竹雅論」より抜粋

## 第23回竹風書展―オマージュのかたち―

**1階ギャラリー回廊**
**ギャラリートーク＝毎日（21日を除く）13～13時半**

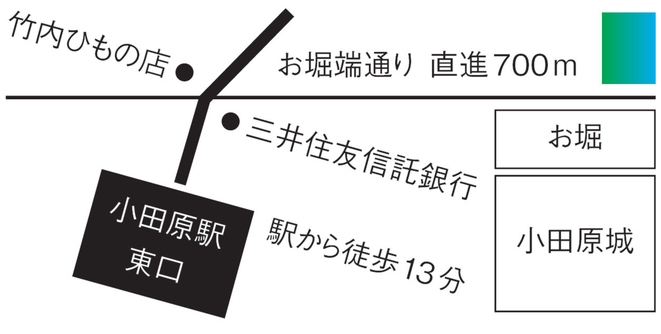
明石清玲　石井清祥　石井抱旦　伊藤甲一　伊東惠美　猪股烈
菊地雅風　熊澤清芳　香坂照葉　越光美風　小林清甫　小林蘭風
斉藤清令　佐藤翠風　杉田登美　鈴木清竹　瀬戸照陽　高橋秀清
土崎清蓉　露木桂風　露木惠良　堂前清悠　中戸川秀風　中戸川千晶
西田紅風　根来清流　野地清絹　橋本美清　平林清蘭　府川清水
富士原清翠　富士原清宝　山口清空　横川清雅　横川清山

出品者（竹風会々員）50音順

# 2025（令和7）年3月19日（水）～23日（日）
# 小田原三の丸ホール

**10時～17時（初日14時～　最終日～16時）**
**神奈川県小田原市本町1丁目7-50　250-0012　0465-20-4152**
**会期中無休　入場無料**

主催＝竹風書芸会　後援＝小田原市・南足柄市・毎日新聞社・神静民報社・奎星会・照心書道会
問い合わせ＝石井抱旦（代表）　神奈川県茅ヶ崎市中海岸2-10-13　253-0055　080-3499-4467
越後翔　shoechi.from1986@outlook.jp　ちらしデザイン＝坂巻裕一



啓窓来清風
制作年不明

## 小林清風

| | | |
|---|---|---|
| 1931 | 昭和　6年 | 山梨県で出生。本名＝清。幼少期に小田原へ移住 |
| 1949 | 昭和24年 | 南足柄市立岡本小学校勤務 |
| | | 鎌倉師範特設教員養成所に学ぶ |
| 1953 | 昭和28年 | 松田町立松田小学校勤務 |
| 1954 | 昭和29年 | 髙橋芳枝（竹雅）と結婚 |
| | | • 髙橋竹村に従事 |
| 1956 | 昭和31年 | • 照心誌の編集子になる |
| | | 以後1冊の欠刊も遅刊もなく54年間単独編集を務める |
| 1972 | 昭和47年 | 開成町立開成小学校勤務 |
| | | 神奈川教育テレビ低学年理科番組の製作委員 |
| 1973 | 昭和48年 | 教育問題懇談会出席。文部省全国選抜の幼少中14名の中堅教師として文部大臣との対談 |
| 1975 | 昭和50年 | 文部省海外教育事情視察団としてヨーロッパ研修に派遣される |
| 1979 | 昭和54年 | • 照心書道会30周年記念式典にて功労者表彰される |
| 1982 | 昭和57年 | 中井町立井ノ口小学校勤務 |
| 1985 | 昭和60年 | 南足柄市立北足柄小学校教頭 |
| 1988 | 昭和63年 | 南足柄市立北足柄小学校校長 |
| | | 足柄上郡小学校教育研究会会長 |
| | | 小学校理科の教科書執筆（12年間） |
| 1990 | 平成　2年 | 中井町中村小学校校長 |
| | | 日本初等理科研究会理事長（～3年） |
| 1991 | 平成　3年 | 定年退職 |
| 1992 | 平成　4年 | 民生児童委員を12年間務める（内2年間会長） |
| | | 三竹地区福祉会会長・ふれあいの会顧問を務める |
| 1993 | 平成　5年 | • 照心書道会会長に就任（～平成13年） |
| 2000 | 平成12年 | • 第1回竹風展開催（南足柄市文化会館、以後毎年開催） |
| 2002 | 平成14年 | • 照心書道会名誉会長に就任 |
| 2017 | 平成29年 | • 奎星会特別会員となる |
| 2019 | 令和　元年 | 叙勲　瑞寶章雙光章 |
| 2023 | 令和　5年 | 12月9日　92歳卒 |
| | | • 書歴 |

伊勢集全臨
2009　平成21年

## 小林竹雅

| | | |
|---|---|---|
| 1929 | 昭和　4年 | 神奈川県横浜市中区で芳平・チヨ長女として出生。本名＝芳枝 |
| 1947 | 昭和22年 | 南足柄市立岡本小学校勤務 |
| 1954 | 昭和29年 | 小林清と結婚 |
| 1963 | 昭和38年 | 小田原市立山王小学校勤務 |
| 1972 | 昭和47年 | 小田原市立富水小学校勤務 |
| 1978 | 昭和53年 | 50歳で退職 |
| | | 仮名書道を渋谷竹径に師事 |
| | | 民生児童委員を11年務める |
| | | お遍路を開始、90歳で結願 |
| | | 4国88ヶ所・西国33ヶ所・坂東33ヶ所・秩父34ヶ所 |
| 2021 | 令和　3年 | 9月12日　92歳卒 |

特別陳列

## 髙橋竹村
## 髙橋翠雲

照心書道会創立者
髙橋竹村（本名＝芳平）

小林清風（本名＝清）
└ 小林竹雅（本名＝芳枝　長女）
└ 髙橋翠雲（本名＝翠　四女）

小林清風
教道と照心に生きた軌跡